

2009年度

科目名	生物学A		
担当教員	三浦 和彦		
配当	文 1・人間1	コード	13080
開期	前期	講時	月曜日3限
		単位数	2
授業テーマ	生物とそれをとりまく世界： 生物圏のしくみ		
目的と概要	みずからの環境条件を激しく変化させてきた人類の現在を理解するために、生物とその環境との40億年ちかくの歴史を振り返る。単細胞生物の誕生に始まり、多細胞生物の多様な分化と、その系統をたどる。これらの舞台である地球システムを生物の視点から眺めることにより、「暮らし」と環境とのダイナミクスを理解し、みずから分析可能になるよう学習することを目標とする。生物Aでは、主として生物圏そのものを、生物Bではそのヒトのかかわりを課題としてテーマを展開する。		
成績評価法	通常の講義時の小レポートと小テストで評価する。		
テキスト	コア講義生物学 田村隆明 著 裳華房刊		
参考書	里山の自然 田端 英雄 編著 保育社刊		
履修に当たっての注意・助言	ビデオ、パワーポイントなどを使用するので、メモの工夫をしてください。		
講義計画			
第1回	生命の相互作用:生命の誕生を「主体-客体」関係の誕生としてとらえてみよう。		
第2回	相互作用系:細胞の構造と生命のメカニズムにおける相互作用について考えてみよう。		
第3回	「環境」の誕生:「作用と反作用」および「環境形成作用」とはどのようなことなのだろうか。		
第4回	「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって大気は何なのか。		
第5回	「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって水とは何なのか。		
第6回	「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって土壌とは何なのか。		
第7回	原核生物の誕生と適応的放散		
第9回	真核生物と藻類: 系統を探る		
第9回	真菌類: 系統を探る		
第10回	植物と動物: 系統を探る		
第11回	環境圧としての物理化学的諸要素にはどんなものがあるのだろうか。		
第12回	環境圧としての生物圏: 生物は他の生物と、どのように協力し、あるいは競い合うのか。		
第13回	環境圧と生活史: 発育段階理論からみて、生物の生存リスクはいかなるものなのだろうか。		
第14回	成長曲線とポピュレーション: 生存とか繁栄はいかなる成り立ちで生起するのだろうか。		
第15回	種多様性の保全と持続可能なヒト社会の活動。ヒトは他の生物と協調して生存できるのだろうか。		